

施策マネジメントシート

基本施策名	2-1 交通環境の整備	施策 統括課	交通課	氏名	中島広幸
政策名	7 都市基盤	主な 関係課	福祉総務課		

1 施策の目的と指標

対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等
・市民
・市内事業所通勤者
・市内学校通学者
・市内全域

施策の目的
だれもが安全に行き交うことができるとともに、超高齢社会を支え、駅や駅周辺地域へのアクセスしやすい地域交通を整え、より多くの市民が公共交通機関や自転車を積極的に利用できるまちを目指します。

対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 人口	人
イ 通勤者数	人
ウ 通学者数	人
エ 市域面積	km

成果指標(意図の達成度の指標)数字は記入しない

名称(展開方向ごとに記載)	単位
1 ア 交通人身事故の発生件数	件
イ	
2 ア 駐輪場の定期利用待機者数	人
イ 1日当たりの放置自転車調査台数	台
3 ア コミュニティバス「くにっこ」の年間乗車人員	人
イ 福祉的な交通施策に満足している市民の割合	%
ウ 公共交通が不便であると回答した市民の割合	%

2 第1次基本計画期間(平成28～令和5年度)内における取組内容

施策の展開方向	目的	手段(具体的な取組内容)
1 交通安全対策の推進	高齢者、しょうがいしゃ、子どもなどの交通弱者も安心して移動できる、交通事故のない環境を目指して整備を進めます。	交通安全対策に関する総合的な計画を策定し、これに基づく取組を計画的に推進します。 子どもから高齢者まで広く市民を対象とした交通安全教室の開催等を通じ、交通安全意識の啓発と交通ルールの徹底を図ります。 交通事故防止の観点から危険箇所を解消する緊急性や必要性を踏まえながら、計画的に交通安全施設の整備を推進します。
2 自転車の安全利用の推進	子どもから高齢者まで、だれもが安心して自転車を利用できる環境を整備します。	さくら通りや大学通りなど、既存の自転車走行空間との調和を図りながら、自転車利用者が安全で快適に通行できる自転車走行空間の整備を推進します。 民間事業者との連携・協働の下、「国立市自転車駐車場整備計画」に基づき自転車駐車場の整備を推進するとともに、放置自転車対策の強化を図ります。
3 地域交通体系の充実	市内の交通不便地域を解消し、だれもが使いやすい公共交通の確保・拡充を目指します。	利用者ニーズ及び費用対効果を十分に勘案しながら、コミュニティバス「くにっこ」を含め市内公共交通機関(民間路線バス、タクシーを含む)の充実を図ります。 今後、増加すると見込まれる高齢者やしょうがいしゃの移動手段を確保するため、福祉的な交通の充実を図ります。
4		

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値、実績状況把握

			単位	数値区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度									
対象指標		ア		見込み値										目標達成度								
				実績値	74,546	75,054	75,466	75,932	75,984													
			イ	見込み値													達成・ 未達成	前年度 比較				
				実績値	26,588	26,588	26,588	26,588	26,588													
			ウ	見込み値															達成・ 未達成	前年度 比較		
				実績値	9,240	9,240	9,240	9,240	9,240													
			エ	見込み値		8.15	8.15	8.15	8.15	8.15											達成・ 未達成	前年度 比較
				実績値	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15													
成果指標	展開方向1	ア		成り行き値										未達成	向上							
				目標値	210	208	205	203	200	198	195	193	190									
				実績値	221	228	240	247	244							未達成	向上					
				基本計画における 指標の説明又は出典元		国立市内の事故発生件数の報告																
			イ		成り行き値																	
					目標値																	
					実績値																	
					基本計画における 指標の説明又は出典元																	
		展開方向2	ア	人	成り行き値													達成	維持			
					目標値	200	175	150	125	100	75	50	25	0								
					実績値	517	412	0	0	0					達成	維持						
					基本計画における 指標の説明又は出典元		自転車駐車場のキャンセル待ち人数															
			イ	台	成り行き値											達成	低下					
					目標値	120	115	110	105	100	95	90	85	80								
					実績値	81	49	36	14	23					達成			低下				
					基本計画における 指標の説明又は出典元		1日当たりの放置自転車調査台数															
	展開方向3	ア	人	成り行き値											未達成	低下						
				目標値	270,000	273,750	277,500	281,250	285,000	288,750	292,500	296,250	300,000									
					実績値	279,334	278,160	272,844	283,957	277,213							未達成	低下				
					基本計画における 指標の説明又は出典元		コミュニティバス「くにつこ」の年間乗車人員															
			イ	%	成り行き値											未達成	向上					
					目標値			65.0	67.5	70.0	72.5	75.0	77.5	80.0								
					実績値		61.6	53.5	55.7	56.4					未達成			向上				
					基本計画における 指標の説明又は出典元		国立市市民意識調査															
		展開方向4	ウ	%	成り行き値											未達成	向上					
					目標値	30.0	29.0	28.0	26.0	25.0	24.0	23.0	21.0	20.0								
					実績値	31.3	31.1	31.5	29.9	25.7					未達成			向上				
					基本計画における 指標の説明又は出典元		国立市市民意識調査															
			ア		成り行き値																	
					目標値																	
					実績値																	
					基本計画における 指標の説明又は出典元																	
施策コスト	事業費	財源内訳	事務事業数		本数		18	15	10													
			国庫支出金		千円			116,400														
			都道府県支出金		千円			223,007	30,307													
			地方債		千円																	
			その他		千円			132,712	279,552													
			一般財源		千円			599,203	-113,297	171,081												
			事業費計 (A)		千円	0	1,071,322	196,562	171,081	0	0	0	0	0								
			延べ業務時間		時間		12,587	9,160	5,810													
			人件費計 (B)		千円		50,240	32,390	21,630													
			トータルコスト(A) + (B)		千円	0	1,121,562	228,952	192,711	0	0	0	0	0								

4 施策の成果実績値に対する評価

(1) 時系列比較(過去3ヶ年の比較) A(かなり向上)～E(かなり低下)

(2) 他自治体との成果実績値の比較 A(かなり高い)～E(かなり低い)

背景として考えられること(数値で表せない定性的評価もあれば記載する)

自転車駐車場の拡充整備に伴い、定期利用者のキャンセル待ちがなくなり、放置自転車が激減した。

高齢者の事故や自転車に関わる交通事故の割合が全国的に高くなってきている。また、高齢化に伴い、従来の路線バスやコミュニティバスなどの定時定路線型の乗合交通だけでは、対応が難しくなり、個別輸送の福祉交通の需要が多くなってきていると考える。コミュニティバスの定着化が進んでいる。

5 施策の現状 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？

展開方向1「交通安全対策の推進」 交通安全対策基本法に基づき、平成28年度に国、東京都は交通安全計画の改定を行い、総合的かつ計画的に交通安全対策の推進を行っている。市では、小学校、立川警察署と連携し通学路の合同点検を実施し、交通安全対策審議会議にて、更なる交通安全対策の検討を行っている。また、高齢者や自転車に関係する交通事故の割合が高いことから交通安全の啓蒙活動の推進を行っている。また、交通事故死に者が平成29年度から増加に転じているが、令和元年の事故件数は若干減少したが、いまだ多い状態であり、自転車乗用中の負傷者数は増えている。 展開方向2「自転車の安全利用の推進」 国は、平成24年に策定された「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」を平成28年7月に改定し、平成28年12月に「自転車活用推進法」を制定した。これにより、自転車ネットワークの推進及び国、自治体の責務を明確し、自転車の安全利用、駐輪対策、利用環境の改善など総合的に施策を進めているとされている。市では、自転車安全利用促進の検討や自転車通行環境空間の整備などを目指し、自転車対策審議会議を設置し検討・協議を行い令和元年11月に「国立市交通安全計画」を策定した。 展開方向3「地域交通体系の充実」 平成25年12月に「交通政策基本法」が制定され、それに伴う交通政策基本計画が策定され、人口急減、少子化、超高齢化という課題に対応した交通施策について、平成26年度から平成32年度までの計画期間で、施策の推進を行っている。また、平成29年3月から国土交通省では、高齢者の移動手段の確保に関する検討会を設置し、検討を行っている。市では、平成28年度末でコミュニティワゴン試行運行の青柳ルートを除く、3ルートを休止し、新たな交通システムであるデマンド型交通の導入事業化調査を行い、試行運行に向け検討を行った結果、見送ることとした。また、高齢者などの移動困難者への更なる対応が求められていることから、平成29年3月に福祉交通充実のための取組方針を策定し、市内、関係機関等と具体的な施策の検討し、平成30年度から継続的に一橋大学と連携し、福祉交通の需要調査・分析を行っている。令和元年11月に福祉交通を考えるシンポジウムを一橋大学と協働で開催した。
--

(2) この施策に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

通学路の交通安全対策の要望がある。 生活道路での交通安全対策の要望があり、特に交差点での対策の要望が多い。 駅ホームドアの設置の要望がある。 自転車安全利用のマナーアップの要望がある。 国立駅南口東地域への自転車駐車場整備及び違法駐輪対策、夜間撤去の実施要望がある。 自転車通行環境の整備の要望がある。 谷保地域の狹隘道路が多い不便地域にも、定時定路線のバス運行の要望がある。 福祉有償運送等移動困難者施策の充実の要望がある。
--

(3) 施策の取組状況

元年度の取組状況	2年度の取組予定
展開方向1「交通安全対策の推進」 ・交通安全対策審議会議へ交通安全計画について諮問及びパブリックコメントを実施し、11月に「国立市交通安全計画」を策定した。 ・中小学校の自転車安全教育を立川警察署と協働で実施し、一般向けの自転車シミュレーション及び高齢者向けのスクエアドストレート方式による交通安全教育を実施した。 展開方向2「自転車の安全利用の推進」 ・自転車対策審議会議へ自転車安全利用促進計画について諮問及びパブリックコメントを実施し、11月に「国立市自転車安全利用促進計画」を策定した。 ・民間主導によるコミュニティサイクルの充実を図った。 展開方向3「地域交通体系の充実」 ・地域住民や利用者などへアンケート調査を行い、本格運行になったコミュニティワゴン青柳ルートの愛称名「あおやぎっこ」やフルラッピングによるデザインを決定し、利用者増のための広報を行った。 ・8月に中央線側道へコミュニティバスのルート変更を行った。 ・引き続き一橋大学との提携による福祉交通の需要調査(パネル調査)・分析を行い、福祉交通のシンポジウムを開催した。 また、事業者及び関係部署と協議を行い、料金の見直しや統一化などを決め、福祉有償運送の利用促進に取り組んだ。	展開方向1「交通安全対策の推進」 ・交通安全計画に基づき、交通安全対策及び啓蒙活動を立川警察署や交通安全協会、学校関係者等と協力し実施する。 展開方向2「自転車の安全利用の推進」 ・自転車安全利用促進促進計画に基づき、自転車通行環境整備を実施する。 ・民間主導によるコミュニティサイクルの充実を図る。 展開方向3「地域交通体系の充実」 ・引き続き一橋大学との提携による福祉交通の需要調査(パネル調査)・分析を行い、福祉有償運送運営協議会で検討を行う。 ・福祉交通の継続的に行えるように、有償ボランティア等の人材を積極的に募集する。

6 元年度の評価結果 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策の全体総括(成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等) 基本的に展開方向ごとに記載

総合基本計画に照らして評価する(目的達成のための事務事業が適切か、事務事業の実施方法は適切か)

○成果実績

展開方向1「交通安全対策の推進」 ・交通安全計画を策定したことから、計画的な施策実施ができるようになった。 展開方向2「自転車の安全利用の推進」 ・自転車安全利用促進促進計画に基づき、自転車通行環境整備や安全推進活動が計画的にできるようになった。 ・コミュニティサイクルの利用者が年々増加している。 展開方向3「地域交通体系の充実」 ・コミュニティバス・コミュニティワゴンが地域交通として定着してきている。 ・福祉有償運送利用者が増えている。
--

○改善余地のある事項・課題等

展開方向1「交通安全対策の推進」 ・交差点での隅切り確保について、調査・研究が必要である。 展開方向2「自転車の安全利用の推進」 ・国立駅東側地域への自転車駐車場用地の確保が課題である。 ・放置自転車引取り件数の促進及び中央線高架下自転車駐車場の有効が課題である。 ・コミュニティサイクルの広域的なポートの設置が課題である。 展開方向3「地域交通体系の充実」 ・福祉有償運送事業者の継続的な事業運営が課題である。

(2) 施策の元年度における総合評価

B	成果実績数値の評価(A-E)に、定性的要素を加味した評価 A:目標とする成果を挙げており、社会的要請にも十分応えられている。 B:一定の成果を挙げているが、向上・改善の余地がある。 C:成果向上のため、一層の努力が求められる。 D:成果に乏しく、改善が急務である。事業の一部に見直しが必要である。 E:現状の事業では施策の目的を達成することが困難であるため、抜本的な見直しを要する。
---	--

7 施策の課題・今後の方向性 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 3年度の取組方針

展開方向1「交通安全対策の推進」 ・交通安全計画に基づき、交通安全対策及び啓蒙活動を立川警察署や交通安全協会、学校関係者等と協力し実施する。 ・交差点の隅切り確保の方針を検討する。 展開方向2「自転車の安全利用の推進」 ・自転車安全利用促進促進計画に基づき、自転車通行環境整備を実施する。 ・都市計画道路3・4・10号線沿いの一時貸駐輪場の検討を行う。 ・民間主導によるコミュニティサイクルの充実を図る。 展開方向3「地域交通体系の充実」 ・引き続き一橋大学との提携による福祉交通の需要調査(パネル調査)・分析を行い、福祉交通の施策の検討を行う。

(2) 中期的な取組方針(概ね実施計画期間を想定)

・交通安全計画に基づき、子どもから高齢者まで、年齢層に合わせた交通安全教育や交通ルール遵守の徹底、交通安全対策を推進する。 ・自転車安全利用促進計画に基づき、自転車活用事業の推進及び自転車通行環境の改善を行う。 ・現在自転車駐車場がない国立駅南口東地域への自転車駐車場の設置を支援する。 ・地域交通の充実、福祉交通の推進に取り組む。
